

知事広聴：平太さんと語ろう

発言要旨

日時：平成22年6月30日（水）13:30～15:50

会場：伊豆市民文化ホール

1 出席者（男性4名、女性2名 計6名）

2 発言意見

No	項 目	県関係部局
1	桂流コシヒカリによる農家、米屋、旅館業者の三方一両得	経済産業部 茶業農産課 文化・観光部 観光振興課
2	伊豆市に芸術を育てたい	文化・観光部 文化政策課
3	日本一のワサビの普及	経済産業部 みかん園芸課
4	シカの食害をなくし、森の生態系を保つ提案	経済産業部 農山村共生課、林業振興課、研究調整課 くらし・環境部 自然保護課 交通基盤部 森林整備課 危機管理部 危機対策課
5	ボランティア、観光、道徳心教育を組み合わせ合わせたポランツーリズム活動	くらし・環境部 廃棄物リサイクル課 教育委員会 学校教育課 文化・観光部 観光振興課
6	文学村、芸術村の設立による伊豆の活性化	文化・観光部 文化政策課
7	道路案内標識の改良	交通基盤部 道路保全課
8	伊豆市のPR	文化・観光部 観光振興課 経営管理部 自治行政課地域主権室
①	伊豆市の将来像	企画広報部 調整課
②	伊豆の地形を利用したスポーツイベントの開催	警察本部 交通規制課 教育委員会 スポーツ振興課 文化・観光部 観光振興課

3 意見交換内容

出席者発言要旨	知事発言要旨
<p>1 桂流コシヒカリによる農家、米屋、旅館業者の三方一両得</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 観光地、それから観光を取り巻く環境は非常に厳しい。その中でも、湯布院、城崎、草津、野沢のように観光客数をピークからは減らしても、元気な温泉地はある。そんな温泉地に行ってみると、地域が生き生きしていて、活力がある。地域の中でお金が回って、経済が回って、いろいろなものが循環しているという気がする。 ・ 昨年からは修善寺の旅館組合で新米キャンペーンを始めた。これは修善寺温泉の北又、湯船地区のライスセンターで120軒ほどの農家がつくっているコシヒカリを利用しており、食味検査等で御殿場コシヒカリにも負けないお米である。 ・ 農家のほとんどは自家消費用に米を使っており、余った米は、米屋や農協に言い値で引き取ってもらっていた。しかし、それではもったいないので、旅館のお客にそれを食べてもらおうと考えた。米屋などに引き取られている量を調べたところ修善寺の旅館組合の消費量の2カ月分だということが分かり、農家にその米を旅館で使わせて欲しいと伝えた。 ・ 普通このような話では、単価を下げるために流通業者を飛ばして直接の農家と取引をしたり、一括購入をするが、日本中そうしてきたため、地域の流通業者、小売店が成り立たなくなった。たまたま修善寺温泉には米屋が1軒だったので、その米屋を含め、旅館組合、生産者、米屋の三者で話をして、農家が今まで非常に安い値で売っていた米を各旅館に売ってもらうようにした。 ・ 生産者にとっては、今までよりも高く売れる。米屋にとっては、十分な量を各旅館と商売でき、今まで以上の利益が確保できる。旅館にとっては、今まで新潟や山形のコシヒカリというブランド米を多くの流通業者を経由し 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 伊豆半島にはワサビ、シイタケ、イチゴなど、さまざまなブランド品があるが、今日は御殿場のコシヒカリに勝る隠れたブランド品、桂流コシヒカリの話聞いた。この農芸品を農芸品らしく消費するにはどうしたらいいか考えた、この工夫がすばらしい。農家の人たちにとって、言い値じゃ気の毒だと思ったその思いやりが良い。あなたのようなリーダーを通して、農家にも米屋にも旅館業者の方にも、全部に良くなるように考えたのが良い。三方良しというのがすばらしい。近江商人にも勝る。そしてお客さんにも喜んでもらえる、これまたすばらしい。

出席者発言要旨	知事発言要旨
<p>高い値で仕入れていたが、1つの流通業者を経由することで、安く仕入れることができる。三方一両得の非常にいい話である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実際に食べた旅館の客から取ったアンケート結果も非常に良く、結果を聞いた農家は大変喜び、生産意欲が上がった。 ・ 生産者が意欲を持ち、今まで以上に頑張ることで、耕作面積を減らさず、地域の保水能力を高め、景観を保全し、源泉の保護にもつながる。良い事づくめである。 ・ 今、地産地消というのは簡単なことではないが、一次産業、二次産業とタイアップをした良い形ができています。この活動を今年も続けていくので、御理解、御協力いただきたい。 	
<p>2 伊豆市に芸術を育てたい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今回の広聴会が水曜日の昼間開催されるので、私の同年代 20 代、30 代の方は、働いていて来られないのが残念である。 ・ 東京で絵の勉強をして、伊豆に帰ってきたが、絵の才能を活かせる就職先がほとんどなく、自分で仕事を開拓してやってきた。伊豆箱根鉄道と共同して切り絵でバスを装飾したり、大仁警察と共同で切り絵を利用しお年寄りの安全のための講座を行ったり、学校でも活動している。 ・ 伊豆の一番良いところは、心の原風景があることだと思う。それをテーマに自分は絵をつくっており、都会から来る観光客と話してもそれを求めていると感じる。 ・ しかし、親が子どもに、「伊豆に就職しな。」と言うことは少なく、伊豆にいる若者は減っている。親の世代が次の世代にバトンタッチするとき、どれだけの人がいるか不安である。自分の同級生も皆都心に出ており、伊豆は好きだけど、伊豆のことはよく分からないという子が多い。 ・ 新たに何かをつくるのではなく、伊豆 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今日彼女は浴衣で来られた。日本には衣替えの文化があるが、こういう思い切った衣替えをしてまちを飾ってこういう気持ちがいい。そしてそういう気持ちで切り絵をしている。彼女は今行われている上海万博で日本産業館の静岡ウィークに出演する「ふじのくに」が誇る芸術家である。 ・ 心の原風景をつくっているということで、お母さんが子どもを抱いている作品を見たが、自分の小さなときを思い出させるものであった。こうしたものが芸術だと思う。本当に良いなと思わせる、人間の心を豊かにするものが良い。 ・ 伊豆市には伊豆市書道美術品目録があり、先ほど見せてもらったが横山大観とか、そうそうたる人々のものがある。しかし、これを展示する場所がないということであり、もったいない。これを見られるよう何とかする。 ・ お金を余りかけないで、知恵を出して、誰もが来やすいように、そして来た人たちや自分たちも楽しめるにはどうしたらいいかが知恵の出どころと思う。

出席者発言要旨	知事発言要旨
<p>に元々あるもので良くなっていく、そして若いなりのアイデアで人を育てられれば良い。それぞれ個人ではパワーがある人が多いが、合併して伊豆市となり、皆それぞれでやっていてまとまりがないように感じる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 昔、横山大観だとか、川端龍子先生を旅館で育てたように、よき人を育てる、芸術を育てる伊豆をテーマに自分は話していきたい。 	
<p>3 日本一のワサビの普及</p> <ul style="list-style-type: none"> 万城の滝の上流部でワサビを栽培して15年になる。仲間と優良品種の選抜、市場視察、そのほかにもいろいろ行ってきたが、先代たちと同じことをしていても何も進まないと思い、仲間と8年前にワサビの情報発信を始めた。 仲間と「わさびだネっと」というホームページを立ち上げて、いろんなことをやっていたおかげで、気がついたら中日農業賞という賞をもらえた。 ホームページではネット通販はあえて行わず、子ども向けのワサビ辞書、夏休みの研究材料のテーマや資料となるようなページづくりと、青年部員が毎月集まって活動している内容、ワサビをおいしく食べてもらう方法、うどん・ワサビ丼・漬物の作り方、自分たちが知っているうんちくを載せ楽しんでもらえるページづくりをしている。 そうやっているのと、あちこちから問い合わせがあったので、その人たちにワサビ田に入ってもらって収穫体験を始めた。 夏休みの宿題で来た子どもや定年退職後にワサビをつくってみたいと来るおじさん、そして外国人と一緒に楽しく過ごすことができた。ホームページをつくったおかげで、ワサビのおいしさ、つくっている人、ワサビが育つ環境にも実際に触れ、見てもらい、PRできたんじゃないかなと感じる。これからも続けていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 代々ワサビをつくってきて、それを見事に継承されていて、子どもたちに継承させていきたいというすばらしい志を持っている。 自分だけではなくて、仲間とワサビづくりの会をつくり月に数回集う、そしてホームページを通してネットワークを広げていく、こういう輪づくりがすばらしい。 政府は食糧問題の解決策として、カロリーベースでの食糧自給率を上げることを考えている。私はこの考え方に否定的である。この解決の糸口として、いかに健康であるかということが大切だと言われた。カロリー過多にならず、食材を多く、バランス良く食べるということが健康である。 先ほど採りたてのワサビをほほが落ちるほどおいしい食べ方で出してもらった。これが食べる喜びである。ここにワサビへの愛情を感じた。おもてなしの心があり、立ち居振る舞いに深く感じる場所があった。 葉のハート型をハーブとして生かせないかというのは、なかなか良いかも知れないと、今後の活躍を期待するとともに、何か協力できることがあるなら、市長や、県議を通して具体的に言ってくれれば、日本一のワサビはここが産地なのだから、支えたい。

出席者発言要旨	知事発言要旨
<ul style="list-style-type: none"> ・ ワサビというと辛いというイメージを持つが、見方を変えると、甘み、香り、色、形に特徴があり、葉はハート型でちょっとかわいかったりして、アベックやカップルにうまく使えると思うし、薬味を横文字にして、ハーブとすると、皆の発想が変わると思うので、この点から提案していきたい。 ・ ワサビ田にいと、ここ数年の水量の増減に激しさを感じる。雨が降って、わっと水が出ると思うと、全く水がなくなってしまう。これから暑い日が続くときのこととも考えると温暖化をワサビ田の中において感じる。 ・ 天城山をまず守らなければいけない。ワサビは、天城山に降る雨が山の森林の中に蓄えられ、湧き水となって出てきた水がなければつukれない。 ・ ワサビは日照に弱く、温暖化を感じると傷ついてしまう敏感な作物である。ワサビができるほどきれいな水がたくさん流れる伊豆市の自然環境をもっとPRしていきたい。 ・ ワサビや農業は環境がキーワードであるが、それに伊豆の温泉を使った健康、観光を融合させることが、ワサビ産地を守ることになると思う。今はそれぞれが点で動いているので、どこかがコーディネートするきっかけづくりを知事に提案して欲しい。そうすれば自分たちも協力していく。 ・ 子どもたちにワサビ農家をやりたい、格好いいと思われるように、いつもいろいろ考えている。 ・ とにかく伊豆市のワサビが一番で、それだけは皆さんの頭の中に入れてもらい、自分たちの行動を見て欲しい。 	

出席者発言要旨	知事発言要旨
<p>4 シカの食害をなくし、森の生態系を保つ提案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成15年から県が進めているシカの個体調整の中で、今までこの地域の指導的立場でやってきた。 ・伊豆の山では人工林はわずかし活用されていない。手入れされていない木々は飽和状態まで育っている。森林内には光が全然差さないような状態で、下草や次世代の幼木などが森林には見られない。 ・一方、シカの保護政策が長期に実施された結果、個体数が適正生息数の5倍を上回る状態となった。森林の下層植物の衰退と、シカ生息密度の増大で、シカの餌不足が生じ、山の周辺の農林業作物、自然植生に被害が急激に進行している。森林内の表土の流出、笹原やススキの消滅、樹木の枯渇により、伊豆の山は急速に枯れ山と化している。そして雨が降れば、狩野川の支流の川は、すぐ泥濁りになる。 ・県は山の整備を森林(もり)づくり県民税による森の力再生事業で進めている。 ・一方シカについては、特定鳥獣保護管理計画を策定し、シカの大捕獲作戦が行われている。狩猟、環境捕獲、有害捕獲という三つの捕獲許可によって、捕獲は進められている。 ・捕獲の状況は、狩猟では狩猟者の急激な減少により計画に達していない。環境捕獲は、地元の狩猟者が中心となり、荒れた山地の中で頑張っているが、管理捕獲の目標数を今年県が倍増し、それに加え市町の有害捕獲でほかの動物も獲る必要があり、年間で休みなく野生鳥獣と闘わなければいけない。この状況では仕事ができないから鉄砲をやめようという狩猟者が出ている。ボランティアでの捕獲の限界がきている。 ・また、猟銃での事件をきっかけに、銃の所持管理も非常に大変になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・この話は深刻である。シカの個体数が増加する中で、捕獲する狩猟者の高齢化と人口減少が起きている。銃を所持するにはいろいろ規制がある。また規制を通っても、訓練をしなければいけなく手続が面倒である。さらに捕獲しても、公的補償はほとんどない。それでは何のためにこんなことをするかということになり、悪循環に陥っている。 ・県では今年の捕獲数を2,000頭と目標を立てているが、狩猟者がいなければ無理である。 ・そこで、もう食害ではなく、災害だと考えた。災害となれば本県は防災先進県である。 ・防災で一番酷いときには、自衛隊が来てくれる。それは、普通の防災訓練を受けた人だけでは対応できないときである。それぐらい大きな役割を彼らは果たすことができる。 ・先日、指揮官会議があったとき、陸上自衛隊の指揮官にこの災害を何とかするように考えて欲しいと言ったら、考えると言ってくれた。 ・陸上自衛隊が鉄砲を持ってくるということは法律上できない。しかし、山の中に入っていろいろ訓練することはできる。そしてそれを捕獲する、あるいはどこかに追い込む、居住地域を特定していくことはできないか。法律上どうなっているか。実行する方向で考えてもらうことになっている。 ・県の対応策であるが、人手不足などから本当に実行可能か、ということもある。山が荒れている状態、森が荒れている状態は、放っておけないので、これは災害であるとなれば、そういう方向で動いていこうと考えている。まだ決まっていないが、それぐらい真剣に考えている。 ・生物の多様性は地球の歴史の中で生まれたもので、地球を大切にすること

出席者発言要旨	知事発言要旨
<ul style="list-style-type: none"> ・ 鳥獣の捕獲は危険と隣合わせの作業であるが、万が一の事故の対応は従事者自身のハンター保険のみで、県や市町の補償は何ら用意されていない。 ・ シカは生存力の非常に強い動物で、私たちが行っているシカ捕獲は増加に追いつかない。尾根の植物の方が先になくなってしまう。 ・ シカと森林の問題は、一刻の猶予もなく災害状況にあると思う。生産物を守るように、尾根の希少植物を保護したい。一方、山の自然の働きを重視した森林整備により、シカや野生動物の生息環境の健全化を図ることが、景観保全、水源涵養、土砂災害防止、さらに天城のワサビの沢から下流の田畑を経て、海の生物までの水による栄養補給など、すべての山の働きを正常化することだと思う。 ・ 狩猟に頼る野生鳥獣の捕獲は、狩猟者の減少でもう不可能である。それに代わる施策として、プロハンターの育成と組織化を図り、鳥獣の管理と植物の管理を合わせた山の自然の総合管理システムをつくることが、急務である。 ・ そして、社会は自然の働きの大切さを忘れている。山の管理は所有者の権限であるが、自然は、みんなのものである。ここに手を加えなければ、これからの山は健康になっていかない。 ・ 生物多様性の原理から山の動植物のバランスを保ち、自然生態系を維持できてこそ、人類が地球で生きていける。 ・ 伊豆市は財政が厳しい中、シカやイノシシの加工センターの取り入れなどの幅広い対策に着手しようとしている。国や県も自然環境の保持に新たな投資をするべきである。環境税の導入や森林(もり)づくり県民税の見直しなどで、地域の自然の支援を、国民皆で図れるような政策をとることが必要である。 	<p>は多様性を目的とすることである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 一番多様な生物がいるのは森であり、人間とシカとのバランス、シカと生態系とのバランスをとるべきである。いろいろな問題点を指摘するだけではなく、この解決に向けて実行に入っていくべきときが来ている。2人から現場の声を聞き、もう一度指揮官に話をしようと思うくらい危機感を持った。皆さんも人頼りではなく、自分たちでできることは何かと考えて欲しい。 ・ 力を合わせて、それぞれすみ分けられるようにするために、災害と大きい声を上げて欲しい。災害なら防災先進県として、隊友会や、自衛隊の訓練で出番があるはずだと考えているので、皆さんもそれくらい危機感を持って声を上げてくれれば私もやりやすくなる。

出席者発言要旨	知事発言要旨
<ul style="list-style-type: none"> 伊豆の自然は素晴らしい。それが壊れないように、知事の政策の中に取り入れてもらい、改善を図って欲しい。 	
<p>5 ボランティア、観光、道徳心教育を組み合わせたボランツーリズム活動</p> <ul style="list-style-type: none"> 私達のNPOでは主に天城、船原峠、修善寺の河川敷などで清掃活動を中心に行っている。それ以外にもいろいろな市町で仲間と一緒に清掃活動をしている。 「ボランツーリズム」というボランティアと観光をプラスして道徳心を学んでもらうツアーの研究をしている。秋に向けてこの「ボランツーリズム」を形にし、支援プランとして立ち上げようと思う。 今日皆さんの話を聞き、地域が生き生きしていること、若い人たちがここにいて元気になること、ワサビをはじめいろいろな植物がよく育ち、様々な場所で販売されていること、そして、シカのことでも大事である。 山の問題はシカだけでない。山の中へ行くと洗濯機、冷蔵庫、自動車、バイクなどあらゆる不法投棄物が、落ちている。山の奥に行けば行くほどいろいろなものが落ちている。山の水源近くにもたくさんのごみが捨ててある。1回拾えば4トントラック軽く一杯になる。その処理費は自分たちの割り勘で処理している。市と協力することもある。 若い人がおらず、観光業の方が多く時間的制約があるので、外部の若者を募集し、ごみを2時間拾うとペンションで無料宿泊を提供するという活動をしている。これは今後いろいろ仕組みを考えているところである。 車に乗っていると見えないところに、いっぱいごみが落ちている。 お金をかけずに知恵を出そうという、知事の意見と同意見である。自分たちがやらなければいけないことだし、次世代にも伝えたい。 今日も小学生、中学生、高校生がこの 	<ul style="list-style-type: none"> ボランティアとツーリズムを組み合わせた、こういう独創的なアイデアはどうやって生まれるのか。恐らくコンクリートジャングルの中では生まれにくいと思う。自然が多様なので、これとこれを組み合わせたらどうかと考えたのではないか。 伊豆半島、伊豆市の景色や人はすべて好きである。それが汚れているのでなんとかしたい。きれいだから人が来る。来たときよりもっときれいにしたらどうか。清掃するにはお金がかかるであろう。それなら、その費用を素泊まりという形の対価として無料とする。泊まった体験者はここをきれいにしたということをお忘れなし、ツーリズムの対象にもなる、この考え方は素晴らしい。これはもっと広めた方がよい。 私もそれと似たような考えを持って、富士山を世界文化遺産にしようとしているが、ごみがすさまじい。大分きれいになったが、自然遺産にするには難しい。我々にとって富士山はきれいな存在で、日本だけでなく、世界の中でも最も美しい、地球の造り活動がつくり上げた傑作の一つである。伊豆半島はジオパークになる。そして富士山は世界文化遺産になる、自然がつくり上げた芸術である。 富士山が最もきれいに見えたのが、平成20年では2月だったので、きれいに見えるときだからきれいにしようという思いもあって2月23日に富士山の日を定めた。 知事、市長、県会議員という肩書きは、関係ない。何かきっかけをつくって、県内全域で一斉にやるのも良いし、地域で何かの記念のときにやっても良い、地域のことをきれいにするという

出席者発言要旨	知事発言要旨
<p>場において欲しかったが、平日の午後の時間帯だと参加することはできない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ なので、知事に「平太さんと語ろう」ではなく、「平太さんと拾おう」という会を、小学校、中学校、高校生の人たちとつくってもらい、一緒にごみを拾って欲しい。そうすれば、子どもたちは知事とごみを拾ったというプライドを持って、地域に対しても愛着を持つことになる。 ・ いろいろなアイデアを持つ仲間とともに、清掃活動とさまざまな企画をコラボレーションしながらやっていきたい。そのきっかけとして、ぜひ知事に伊豆市の不法投棄物を一緒に拾ってもらいたい。 	<p>のは、良い考えであるので、賛成である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもが学校の外に出て、そこがどうい地域か先生や市長が説明すれば、現場の教育になり、教育的効果が大きい。学校だと同じ学年、クラスの子としか遊ばないが外に出ればいろいろな人と接する機会になる。 ・ 皆に喜ばれる、自分も誇らしく思うので、このポランツーリズムの背景にある考え方はすばらしい、ぜひ応援してもらいたい。宣伝してもらわないといけない。
<p>6 文学村、芸術村の設立による伊豆の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 昭和の森の道の駅で「竹の子かあさんの店」を8人の主婦でやっている。伊豆市ならではのものを利用し、うまく商品につなげ惣菜に加工し、提供したいということで始めた。立地条件は最高であるが、売り上げが下降ぎみなので、新商品の開発やここに来ないと食べられないものを皆で開発していこうと思っている。 ・ 店を大きくして、次の世代に引き継ぎたい。 ・ 井上靖は湯ヶ島で3歳から13歳まで過ごした。井上靖生誕100年祭を県からも補助をもらい無事に済ませることができ、自分たちがこの地で継承していかなければと改めて思った。 ・ 伊豆市の文化遺産をこれからどのように伝え、どう守り、どう新しい文学を継承していけば良いか、つくっていけば良いかが問われている。 ・ 井上靖ふるさと会が中心になり、井上靖文学だけでなく、修善寺、中伊豆、土肥にあるすばらしい文学者や、その財産をどう活性化して次世代に伝えていくか、考えていかなければならない。その一つとして、伊豆市が文学の発信基地になればと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 店に来てもらうには食材をどのようにして出すか、食の都づくりが大事である。 ・ 今日の昼食にいただいた「まるごと膳」のように見ただけで説明も要らないぐらいなものが良い。観光客にはそれが印象に残り、旬のものだから、またここに来ないと食べられないと思う。もう東京に出荷するのはやめるようにして、ここに来てもらうようにしてはどうか。実はそのようにしたところがある。知多半島か、渥美半島の近くにある島で、そこでできるものを他の地域に持っていかないと決めた。そうすると、他地域の人がそこに食べに来るようになり、その島はすごく賑わうようになった。 ・ ときには、あるときに思い切ったことをやるのも良いかも知れないが、そのための切り札がここにはある。 ・ 積極的に芸術村、文学村をつくらうというのは良い。井上靖の『しろばんば』の中で彼はこの土地を「地球上でもっとも清らかな広場」と言っている。人の心を清らかにするような場所は、湯ヶ島小学校の校庭だけではなく、天城山、狩野川の清流もそうである。つま

出席者発言要旨	知事発言要旨
<ul style="list-style-type: none"> ・ 文学村、芸術村という地区が伊豆市の中にできれば、全国の文学者や芸術家が伊豆市に集まり、人口の増加にもつながる。また、空き学校が古い文化を大事にした形で、リニューアルされたものになると思う。 ・ 先日、伊豆市活性化懇話会が伊豆市を何とかするためにと開催された。市長だけでなく、市民にもパワーがあるのでそこを酌んでもらい力をいただきたい。すべてが持続可能な教育につながると思う。自分たち住民も努力し、頑張るので、ぜひそんな芸術村、文化村ができればと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> り伊豆半島全域が清らかな場の力を持っている。だからきれいにしなければいけない。 ・ そこに芸術を愛する人、文学を愛する人が来るようにするにはどうしたらいいか。これは言うは易く、行うは難しい。 ・ 瀬戸内海に直島という3,000人しか住んでいない小さな島がある。高校も大学もなく住民はどんどんまちに出てしまう。 ・ ところが、そこを愛した人がいて、空き家を芸術家に無料で貸した。芸術家はそこを自分の作品を出展する場所にした。すると驚いたことに、数年経つと、世界で最も美しい七つの場所の一つになった。過疎の島が変わるという良い例である。きっかけさえあれば、直島よりはるかにいい条件を持つ伊豆半島、伊豆市は芸術村、文学村ができると思う。小学校の跡地であれば、小学校は住民が一番来やすいところに建てられているはずなので適地である。 ・ 伊豆市の人口は減っており、合計特殊出生率は1.28と県下35市町の下から2番目である。これは何とかしなくてはいけない。 ・ 美術村の拠点にするとかして、自分たちの学校であったことが誇れる形に変える必要がある。人口減少の問題と芸術村・文学村の設立をお金を余り使わずにやる方法があるか考える。 ・ 美術館風のデザインとして東京の偉いデザイン家に頼むと、費用がかさむ。しかし、静岡文化芸術大学の学生に考えてもらえば良い、賞品は地元の産品や、旅館の招待券、割引券とすれば学生も喜ぶ。 ・ 人が来る、お金を使う、結果的に喜ぶというやり方は良い。 ・ シカ、イノシシが多くなり、人口が減っている。しかし、素材は十分あり、多くのやる気のある人もおり、その後ろには何十人、何百人ものネットワー

出席者発言要旨	知事発言要旨
	<p>クを組んでいる人がいる。この力を合わせれば必ずV字型に回復できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ そのためにやることを具体的に言ってもらえれば協力する。何をすればどうなるか、誰と一緒にやれば、この問題が解決できるかを具体的にやるしかないと思う。 ・ 今日は、芸術、自然環境、観光の話聞いた。そして、女性2人から芸術の話聞いたが、これまでの広聴会で芸術の話聞いたのは初めてである。芸術を通し、文学を通し、また切り絵や、紙という芸術を通して何かできないかと考えている方が2人いる。やはりここには芸術がある。この自然自体が芸術性を持っている、美しさを持っている。だから人の心にそういうものを育むのである。
<p>7 道路案内標識の改良</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 幹線道路に青い案内表示があるが、伊豆市の合併によりその表示がわかりにくくなっている。県は内容を簡素化し、無駄なものを省き、連続性などで決めている。 ・ しかし、伊豆は観光地なのに近くまで行っても目的地がわからない表示が目立つ。青い案内表示が不十分だと、地元の市町が白い看板とか茶色の看板を道路にたくさんつけて、かえって効率が悪くなる。なので地元の土木事務所に弾力性を持たせれば、観光客など他地域から来た人に分かりやすい表示になる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ お客様の目線に立った表示板、案内板を考えるのは、おっしゃるとおりである。 ・ 今までは日本のための伊豆半島であったが、ユネスコに認定されジオパークになると、世界の伊豆半島になる。そのときどうするかも合わせて考えることが大事である。 ・ 伊豆市には、北には修善寺、西の海には駿河湾の清水との連絡ターミナルとなる土肥がある。東には中伊豆、南には湯ヶ島とそれぞれがすばらしく、どれも見るに値する。どこかを見れば伊豆市に行ったということにならず、全部見なければいけないくらいである。 ・ 1回目でここを見られなかったら、次にそこを見に行こうとさせるためにも、日本語の漢字、ひらがなだけでなく、ローマ字でも書くと良い。ローマ字は表音文字として世界最高であり、誰にでも分かると考えて良い。 ・ 富士山静岡空港を利用して韓国人も温泉、ゴルフ、和食を目当てに伊豆半島に来るし、ピザの取りやすくなった中国の観光客も増える。今後は誰が来

出席者発言要旨	知事発言要旨
	<p>でも見れば分かる案内表示をしておく、世界の伊豆半島としてやっていってはどうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ そのためには、旅館組合の人が上海やソウルに行き、現地と日本とのマナーの違いを知る。それを知れば、応接の仕方も分かるようになる。1回行ってみれば、向こうの掲示板や、案内板も分かり、それよりも分かりやすくしていこうということになる。 ・ 観光に携わるような方は、本県が持っている潜在的な観光客を掘り起こすために、その土地をたとえ1日でも良いから見に行くことが大事である。
<p>8 伊豆市のPR</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 観光客が減っており、地元ではインターネットなどで宣伝してもなかなか効果が上がらないが、静岡空港ができたことで中国人観光客が増えるだろうと思う。あるテレビ番組では中国人がよく行くところとして、1位秋葉原、2位は忘れてしまったが、3位山梨となっていた。山梨は富士山を上手に利用しており人が流れている。 ・ 商店は不景気の中、頑張っている。県としては伊豆市の観光を他国や他県にどのようにアピールしているのを知りたい。 ・ 空港からの人の流れについて聞きたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ありとあらゆる機会でも、世界の伊豆半島にしようとアピールしている。 ・ 例えば、飛行機の関係では、就航先の福岡にスルガ銀行の支店ができたと聞き見に行った。そこでは顧客獲得のために、伊豆半島各地の提携する旅館の割引券をプレゼントしていて、福岡の人に好評だと聞いた。そこで、これは良いことだと話をし、紹介している。 ・ 伊豆半島は市町も多く観光協会も13あるなどまとまりが弱い。伊豆半島が一つにまとまり、また東部地域に政令市ができるような枠組みづくりをするため、ジオパークをキーワードとして取り上げている。実際にジオパークになれる条件を持っており、それを中心にまとまりつつある。できることからやっていくということで伊豆ではジオパークが一番アピールしやすいと考えている。 ・ 宣伝の仕方を教えてもらえれば広告塔になってアピールする。 今までは東海道芸術街道と言って、東西の通りだけであるが、芸術回廊として東海道の浜松から熱海までに、東海道から南へ行くいろいろな道も加えている。そして、全体でふじのくに文化芸術回廊と言っている。

出席者発言要旨	知事発言要旨
	<ul style="list-style-type: none"> ・ この地域は文化芸術回廊になれる条件を備えている。 ・ 15年後にはリニア新幹線が通るようになり、のぞみがなくなる分新幹線が熱海、三島などに停車する回数が増える。その人たちを惹きつけることを考えないといけない。 ・ 伊豆半島には熱海から沼津までの美しい海岸線がある。どこからでも、内陸からも、海からも楽しめる景色がある。津々浦々の海の道も伊豆半島の持っている財産である。 ・ 山梨、神奈川、静岡の県知事で行うサミットがあり、富士山・箱根・伊豆半島は一つの観光圏、地域としてやっていき、それぞれを褒めて、ファンを増やす活動を行っている。 ・ 次のサミットは伊豆市で開催することを考えており、観光や防災の連携を深めていきたい。そこにはメディアも参加することとなる。
<p>傍聴者① 伊豆市の将来像</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 知事がもし伊豆住民の平太さんであれば、道州制についてどう考えるか聞きたい。 ・ 知事の著書で『「美の国」日本をつくる』を読んだが、その中で日本を四つの国、西日本、中部、関東・東北、北海道とすれば、それぞれイギリス、フランスと同等のGNPを持った一つの国として十分自立できるとあったが、それでも境界が出てくる。山梨、静岡、神奈川の県知事のサミットが行われるということで安心したが、私は道州制で境ができると伊豆・箱根・富士のネットワークが崩れてしまうと思う。このままでは道州制は、中央集権型の官僚主導型のものになる。権限と財源が委譲された地域支援型の道州制が施行されれば、この伊豆・箱根・富士は、小さくても自立できる十分な能力を持っている。ここは知事が主張している四つの国のオアシスにするのが、一番良いと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ここは東京の外れでも、名古屋の外れでもない。日本のオアシス、スイスのようなイメージとして捉えている。濃尾平野の尾張の景観とも、日本で一番広い関東平野の景観とも違う。ここは独自のものである。外れとは考えず、ここが中心だと考えるべきである。東京圏の外れ、中京圏の外れ、その狭間にあって引き裂かれるんじゃないかと考えているようであるが、両方のど真ん中にあって、両方が憧れる土地にすれば良い。県全体も大井川より西は何となく名古屋圏、そして東は東京圏だとして、両方の中間はどっちになるんだと情けない話があるが、ポスト東京時代に入っている。東京や関西が中心だった時代は終わった。新しい中心が求められている。「ふじのくに」が、日本の中心の「ふじのくに」を自称できるというのが私の考えである。 ・ 伊豆半島、駿河の国、浜名湖のある静岡県として自立していきたい。380万

出席者発言要旨	知事発言要旨
<ul style="list-style-type: none"> ・ そのために、山梨県の道州制会議の分科会には、富士山の世界遺産を推進している県の職員、神奈川県会議には熱海・箱根圏の観光を推進する職員、東京都の会議には伊豆諸島と伊豆半島のジオパーク構想を実現に取り組む職員をオブザーバーで出席をさせて欲しい。 ・ 現在の道州制の構想では全国を18から13ぐらいすると聞いたが、伊豆は中部・名古屋圏に所属した方がいいのか、神奈川・東京圏に所属した方がいいのか答えて欲しい。 	<p>人として自立していきたい。219の食材がある食材の王国、食の都として自立していきたい。第一次産業を重視する、森、水、土を大事にする国をつかっていきたい。森、水、土が欠けている東京にないものがここにある。</p>
<p>傍聴者② 伊豆の地形を利用したスポーツイベントの開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 伊豆半島内には、観光業に携わっている方がたくさんいる。観光の中でも、そして芸術の中でも、スポーツというものは、どちらにも入ってくるものと思う。 ・ 伊豆半島には日本で唯一サイクルスポーツセンターという競輪の学校がある。そこや伊豆の地形を生かしてさまざまなスポーツ支援、例えば自転車のロードレース、マラソンなどを取り上げていこうとしている。しかし、県の道路使用許可がなかなか下りず、実現できないことが多い。 世界の三大スポーツの一つにツール・ド・フランスという自転車のロードレースがある。そのようなものを伊豆半島内で行おうと考えているが、計画に問題があり、道路使用許可が下りない。ほかにもマラソンやさまざまなスポーツで道路の使用ができない。知事がその緩和をして欲しい。東京マラソンでは、知事の一声で道路が全部止められ、フルマラソンが行われている。道路が開放されれば、さまざまな形で伊豆半島を使ったスポーツイベントが行われ、活性化された伊豆半島になる。 ・ 次長に計画書を渡してあるので、それを見て欲しい。伊豆、熱海、伊東、下田、南伊豆、いろいろなところが連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・ スポーツというのは、人間にとって心の問題である。知情意、心というのは知。経験知とか、本読んで得られる知識。それから情、感性、情操、これはとても大事である。もう一つ意、やる気、意思。これはどうして培われるかということ、スポーツである。我慢する、頑張る、稽古する、規律を決めて、しっかり生活しないとできない。だから何事にも一番大切なのは頭の良さや、感性の豊かさにも増して、その人にやる気がある、生きる意欲がある、母親、子どものために頑張るという意欲が一番大切で、それを培うのがスポーツだと思っている。だからとても重要だと思っている。 ・ 今日最初にスポーツ施設を見せてもらった。そして来年日本最高のサイクリングのスタジアムができる。それを狙って何をしたいのか計画を教えてください。できれば可能なことで協力する。

出席者発言要旨	知事発言要旨
<p>して、自転車事業に取り組む案になっており、年間を通じてさまざまな観光客に来てもらう計画になっているので、見て欲しい。</p>	
	<p>まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今日とは三つの力、地域の資源、人々それぞれの持っている力、人間力、そしてネットワーク、交流する力があるということを実感した2時間余りの時間であった。農芸品、芸術、自然の生み出す恵み、この恵みの日本一のワサビ、恵みが反転し厳しくなっているシカの話、地域がきれいであるがゆえに、きれいにしていきながら本県の持っている観光を生かしていくという、ボランティアとツーリズムを一緒にする非常にユニークな話、芸術村、文化村、伊豆半島全体が芸術家や文化人が集うような地域、そういう世界で最も美しい半島で、最も美しい人々が、最も美しいものをつくる。 ・ 人間だけが動物の中で芸術をつくることができる。我々がそれぞれ持っている良さを使って、心を使って、新しい自分たちの美をつくり出すことができる。そういう特権を神様からいただいている。そういう美しいものをつくっていくことができるような人たちがここに集う、それを目指して頑張りたい。